

2021/7/24-3

(うと Q 世話し 人類史開闢以来の大難問 オマケの四方山話編)

昨日突如、レストラン機材の中で「生命線」ともいえる調理台兼冷蔵庫であるテーブル冷蔵庫の冷えが極端に悪くなりました。

どうやら気候変動によるあまりの暑さに、ただでさえ老朽化していた冷蔵庫心臓部のコンプレッサーがヒートアップして「いかれて」しまったみたいです。

先代の借主店主さんから数える事 19 年目の夏の出来事。

これではレストランを運営できない。

かてて加えて今は業者さんが 4 連休中。

更に、此が一番の問題ですが、急場の資金繰り手段が全く見えない。

現実世界でも我がレストランは完全に「サバイバルモード突入」と相成りました。

さてどうするか？

世界そして我が店、いずれの解も早急に見いださなくてはなりません。

最早待ったなし。

以前の記事でもこの言葉を使った記憶がありますが、今回も同じく完全コピーの

「待った、是全くなし」

という緊迫した顔つきを自分がしていたようで、それを見て恐らく心配になった外国人従業員が

「Shachou san, Daijoob(o), aruka?」

と訊くので、

「Sometime shiny, sometime cloudy, sometime rainy. Every day is changeable. Such is life」
(照る日、曇る日、雨降る日、いろいろある(日々変わる)。それが人生だというものだ)

いった文言はおおげさですが、特にこれとって深い意味はありませんでした。

ところがそれを聞いて、哲学的思考に走るならまだしも、あろうことか外国人従業員殿は

「Shachou san, joke, joke, Hahaha, very omoshiroi」

と。

一体何処をどうとると、これがジョークに聞こえるのか？

毎度の事ながら、既に自分は一足お先にニューノーマルな「よく分からない世界」に突入している模様です。

そこで又一句

「不条理が人間を育てる」

(No-understandable situation makes a person grown up)

これまた、特にこれとって深い意味のない言葉でございます。

ですが、彼らが是を聞いて又、何を言い出すか分からないのでこの句は口には出さず、自分の腹の中にだけしまっておくことに致しましょう。

(おしまい)